

『奇兵隊日記』に見える

現徳山市域内の群像（その一）

會員 小林省三

『奇兵隊日記』は文久三年（一八六三）六月六日に

おける奇兵隊編成時から明治二年（一八六九）一月

一日の奇兵隊解散時に及ぶ「隊日記」である。その内容は、形式的には日記であるが狭義の日記とは性格を異にした記録や嘆願書なども含まれている。

この日記により明治維新时期における「現徳山市域内の群像」の活躍の一端を知ることができる。

ここに群像ごとの「記録部分」を抜粋した。

1 毛利元著

第九代徳山藩主（淡路守、徳山公、徳山侯）

○元治元年九月十八日 雨

一徳山公今夜宮市御泊之様子承及候事

○元治元年九月十九日

一昨夜七ツ半時、清末公山口へ御着被為候事、

長府公も近日之中御出山之模様、徳山公ハ御延引之由

○元治元年九月廿七日 大風雨

一徳山公山口へ御着ノ事

○元治元年十月四日 終日雨

一徳山公御帰之事

○慶応元年七月八日

一此度徳山様・吉川様京都より御呼登セ相成候様嘖

御座候、然ル上は京都ニおいて御聞取之上和議相

決候との御評議御座候、此段奉申上候

○慶応元年七月二十九日

一大坂ニては徳山・岩国様御登リニ相成候筈ニ申候
由事

○慶応二年八月六日 雨天

一徳山より御使者来、山県狂介相对、酒三挺一統へ
被下候事

○慶応三年三月廿四日

一長府・徳山二公御帰城候事

○慶応三年十一月廿九日 曇天

一昨夜初更薩艦壹艘入港、是は着坂後徳山侯御迎ニ
来候由

○明治二年六月十七日

一先年来東北出兵之諸藩、此度従朝廷御恩賞左之通
也

覚

八千石 毛利淡路守

2 毛利元功

毛利元蕃世子（儲君、若候、平六郎）

○文久三年十月廿八日 晴

一瀧・渡辺・松岡・高橋・狙撃隊一伍、於徳山世子
君へ拝謁、今朝帰陣之事

欄外記入「本書拝謁之義ハ瀧・高橋二子而已」

○元治元年三月四日 雨

一坂本恕八郎帰郷、明日徳山世子平六郎君台場御順
見ニよつて、清末君侯をも促さん為也

○元治元年三月五日 雨寒し

一今日清末侯・徳山世子君御出ニ付、赤祢武人・林
半七・松岡修作——迎ニ罷出、——清末公より
酒三樽両陣屋中へ賜る、徳山よりも御酒賜ル——

○慶応元年二月八日 雨天

一一昨日花浦村上龜之進来陣、徳山世子君愈九日よ
り御出萩と相決候間、為乞合罷成候、然処徳公御
發駕は御止め申置候、何となれば折角長府公へ御
委任ニ相成、奮然御周旋之処へ御出ニて、若も議
論不合時は事之破るる事如見、夫よりは徳山ニて
藩中之正邪御黜陟国論確乎たる上、御出萩可被成
候段申遣候、承候得は先年已来入獄之人志田作太
夫其外、正義之士悉く病死之由、鳩薬を飲せし也、

実に可悪之奸臣、其君上たる人何そ外事を顧るに
暇あらんや

○慶応二年六月廿八日 晴

一集義隊・義昌隊・山崎隊を合併して齊武軍と相唱
候段、会議所より申来、尚印鑑差越、是ハ徳山儲
君思召を以て也

○慶応三年三月朔日 曇天

一徳山山崎隊小倉へ渡海

○慶応三年三月十二日 晴

一徳山世子君昨日御渡海之由にて、今朝当本陣へ御
出、銃陣場等御順覧、内裡へ御通行被成候付、久
我四郎罷越候事

○慶応三年十二月八日 曇天

一久我四郎日帰富海行、徳山君侯諸兵岩兵共今日乗
艦之由也

○慶応三年十二月十四日 雨

一過ル十日朝廷御寛大之御処置被為在、御両殿様并
御末家様方御入洛御免、御官位如元被復候旨被仰
出候由、末毛利平六郎様より表向御知達ハ無之候

得共、從朝廷芸州様を以御内々御伝達相成候段、
報知として志賀貫一郎今十三日令帰着候事

3 岩崎 環

徳山藩士（謙同、田中默次）

○文久三年七月朔日

一狙撃銃手三十六人山口より被差越候付、片野十郎・
岩崎謙同隊長へ相定候事

○文久三年七月三日

一白井小輔・岩崎謙同狙撃隊稽古差引被仰付候事

○文久三年七月十日 快晴 午後白雨

一岩崎謙同用事有之ニ付、長府罷越候事

○文久三年七月十八日

覚

岩崎謙同

右、御用之儀有之候間、明朝信濃殿陣所へ御出
可被成候事

右之通総管所より申来候ニ付、夫々伝達致候

○文久三年七月十八日

一瀧・赤根・飯田・周田・林・堀・白井・岩崎ハ総
管九州行留守中、奇兵隊諸差引被仰付候事

○文久三年七月廿一日

一杉梅三郎軍中為見舞来ル、赤根・堀平・岩崎、吉
田相對之事

○文久三年七月廿七日 曇り午後より雨

一岩崎謙同前田より帰陣之事

一午後岩崎謙同・阪健之丞兩人用事有之候ニ付、長
府へ罷越候事

○文久三年七月晦日

一岩崎謙同・内山太郎右衛門前田台場より帰陣之事

○文久三年八月十日 晴

一十三之伍片野十郎・堀平三郎・杉山初之進・岩崎
謙同、前田台場へ大砲手継稽古とシテ罷越候事

○文久三年八月十二日 快晴

一岩崎謙同・片野十郎屋後角石へ出張

○文久三年八月十六日

一若殿様今朝五ツ時之御供揃ニテ、壇ノ浦・前田御
台場御順見被遊、前田おいてハ大砲小銃弓隊狙撃

隊所作等不残御好ミ有之、一途相済直様上ノ台場
ニおいて飯田行蔵・原田忠蔵・赤根武人・井上市

之助・田中朔次郎・岩崎謙同・入江九一・堀平三
郎・林半七被召出、厚キ御意等仰聞候、其後番頭
大和弥八郎殿より御酒被下候段演説有之候事

○文久三年八月廿二日

一彦山使僧式人伊勢屋へ来ル、瀧弥太郎・林半七・
岩崎謙同相對罷越候事

○文久三年十月初日 曇天

一岩崎謙同帰陣之事

一福原三蔵・岩崎謙同・原田篤太郎用事ニ付宮市行
之事

○文久三年十月三日 晴

一岩崎謙同右御伺として御茶屋へ罷出候事

○文久三年十月五日 曇天

一岩崎謙同・瀧弥太郎宮市行

○慶応元年六月十七日 沙汰相成候分

一岩崎謙同

右宅帰り之上当分慎罷居候分

4 戸沢竹次郎 (竹治郎・竹二郎・武次郎)

萩藩寄組 堅田大和臣

○慶応元年五月廿日

一戸沢竹次郎右、入隊願出候ニ付、属客トシテ壹番

銃隊留置候事

○慶応元年七月十九日 晴

一戸沢武次郎

右、帰陣之事

○慶応元年九月廿三日 晴

一戸沢武次郎慎被差免候事

○慶応二年正月廿八日 晴

一戸沢竹次郎保喜入湯

○慶応二年二月六日 晴

一戸沢竹次郎夜入之事

○慶応二年二月十日

一田村五郎・金子連一・戸沢武次郎・保喜行ニ付夜

入届出之事

○慶応二年三月廿五日 晴

一戸沢竹次郎、右夜入届有之候事

○慶応二年四月十四日 雨天

一長岡才二郎・関口弥太郎・戸沢竹次郎・益田庫太、

右日帰りニシテ明日長府行致候処、様子次第夜入

ニ可相成との届当人より申置候事

○慶応二年五月八日

一戸沢竹次郎明朝より帰省

○慶応二年六月朔日 晴天夜雨

一戸沢竹次郎、右夜入之事

○慶応三年二月廿八日 晴

一戸沢武二郎長病ニ付、当分不在

○慶応三年四月六日 晴

一戸沢竹二郎・秋山吉熊・菅五郎・田辺揆一夜入届

之事

○慶応三年四月廿四日 晴

一三宅政吉夜入届出、戸沢竹二郎同断

○慶応三年五月三日 雨

一金子連次・戸沢竹次郎明朝より七日之暇にて深川行

○慶応三年五月八日 曇天午前ヨリ晴

一戸沢竹次郎・金子連次昨夜帰陣、深更ニ及ひ今朝届出ル

○慶応三年五月廿九日 曇折々雨

一戸沢竹二郎明朝より十日之間保喜入湯之事

○慶応三年六月十八日

一戸沢竹次郎往来五日ニシテ明日より先大津行

○慶応三年六月廿三日 晴天

一戸沢竹二郎帰陣之事

○慶応三年七月朔日 天気

一戸沢竹二郎夜入届出事

○慶応三年七月十五日 晴暑、夕五時白雨

一戸沢武二郎・舟井鉄之介・金子連二夜入之段届有之候事

之候事

○慶応三年九月五日 雨天 諸業休

一戸沢竹次郎病気快気之事

○慶応三年九月十七日 雨天正午より曇天

一戸沢武二郎・宅野金之允・入江荘助・別処彦助、

無抛用事有之夜入之儀申出有之候事

○慶応三年九月廿四日 晴天

一戸沢竹次郎、右夜入届之事
○慶応四年戊辰正月五日

一二十八才 戸沢竹二郎 城州澱ノ役戦死

5 御手洗音五郎 (乙五郎)

都濃郡大津島 農

○慶応元年八月八日

一御手洗音五郎外四名 右、入隊願出ニ付、一先隊

中留置候事

○慶応二年二月十五日 雨

一御手洗音五郎明朝より帰省之事

○慶応二年三月八日 曇

一進藤市太郎・御手洗音五郎、帰陣之事

○慶応二年八月十八日 晴

一昨日手負 膝之上打貫 御手洗音五郎

○慶応二年九月九日

死去 御手洗音五郎 葬法専寺

参考文献『榎奇兵隊日記』上・中・下・人名索引

一九九八年三月一日発行 発行所 マツノ書店